

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100024		
法人名	社会福祉法人 ひかりの里		
事業所名	グループホーム めだかの学校 悠ゆう		
所在地	山梨県甲府市武田2-8-17		
自己評価作成日	2009・12・30	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	1月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>同敷地内に、小規模多機能型居宅介護が併設されている。 併設に児童養護施設が近くにあり、日々の生活の中で、子供の姿や声を聞く生活があります。また、児童と一緒に外出する機会も多くあります。 職員と少人数で個別外出をしたり、併設のグループホーム入居者との交流も盛んで、一緒に外出したり、料理をする機会も多くあります。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>道路向かい側に同一所法人のグループホームと児童施設があり、また、小規模多機能型居宅介護の事業所は隣接地にある。法人グループが合同で、バスでの外出や行事を行うこともあり、交流は盛んである。特に、合同老人会で振舞う利用者得意の手作りコロッケは、大評判である。グループ内の応援体制は確立されており、帰宅願望の利用者に外まで付添う時や、急に職員が手薄になった時など、応援は心強い。ホーム独自の理念と併せ、素直な心・感謝の心・謙虚な心・奉仕の心、譲り合いの心の法人の五姿勢を心得とし、利用者が安心して暮らせる生活を支援している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	尊厳を大切にし、その人らしく安心して笑顔で過ごせるよう、理念を共有しケアにあたっている。	尊厳保持を大切にし、本人の力を活かしながら、地域に支えられ交流する中で、その人らしく、安心して笑顔で暮らしてもらえるよう支援するという独自の理念を、職員間で共有し、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には声をかけてもらい、積極的に参加している。地域の商店や理容店を利用したり、運営推進会議などを通して、意見交流に努めている。	隣家からの情報提供や協力は大きく、自治会に加入、総会に出席したり、回覧板も利用者と一緒に回す。また、防災訓練・運動会・祭り等の行事に積極的に参加している。今後、散歩時等に、ゴミ収集所や公会堂の外回りの清掃を考えている。	今後も買い物や行事への参加の他、積極的な清掃活動を通し、地域の一員として、更に理解・協力が得られる範囲が広がることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催の認知症教室に講師として参加したり、町内会の集まりに参加して、機会毎に話をさせてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においてサービスの状況等について報告し、感想・意見を述べてもらっている。状況は職員会議等で報告し、今後のサービスに活かせるように努力している。	2か月毎に実施、近況報告・予定行事への協力依頼・意見や要望について話し合う。職員の外部への対応・冷暖房の加減等の意見は話し合いで改善された。また、駐車場も要望により、ジャリから舗装にした。議事録あり。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から連絡を取り合うと共に、困ったことや疑問点があった場合は、市役所へ行ったり電話をして相談にのってもらっている。	利用希望者について相談したり、受けたり、互いに情報交換をする等、日頃の連携は図られている。また、介護保険課の提案で、市内同業者との交流会が計画されており、管理者対象の第1回目に参加を申し込み済みである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について理解すると同時に、日々検討しながら対応している。今後も職員会議や内部研修を利用し、定期的に指導し周知徹底していきたい。	内部研修をする等、認識を全職員が共有している。鍵は一切かけず見守り支援に努め、帰宅願望者には、職員が周囲と一緒に歩く。職員が手薄になる時は、併設の小規模多機能型事業所の応援を受ける。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	尊厳を大事にして、身体への虐待はもちろんのこと、言葉の暴力についても職員に注意を促している。 入浴時や健康チェック時、体調の変調に注意し、気づくことの大切さも指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、制度の導入に至ったり利用していた利用者もいたが、職員の周知にまでは至っていない。学ぶ機会を設けて活用していきたい。 個々の必要性に応じ、本人、家族に適切に導入してもらうことが課題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族や本人と密に連絡を取り合い、不安な点や疑問点について納得、理解してしてもらうまで対応している。 利用開始後も、納得し難い部分も出てくると思うので、随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時において、家族から上がった意見・要望は、職員会議で職員に伝えている。これらの意見・要望は、運営に反映し、面会時や運営推進会議において報告している。	運営推進会議や面会時に出された意見や要望は、全職員で話し合う。職員の服装や対応の改善・機能低下対策として体操をしたり、散歩距離を延ばす・外の清掃をする・責任感ある場面づくり等、実践につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の業務の中で、職員の意見や要望等を聞くよう心がけている。	毎月1回、全体会議を開催し、意見や要望を話し合い、申し送りノートに記録する。内容は全職員が共有する。パットやリハビリパンツの使用数を無駄にしない工夫・重度化に伴った勤務体制等が反映され、実践されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「休み」希望等を考慮して、勤務表を作成している。能力ややる気に応じた昇給も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年5回、職員の内部研修を行い、知識や技術の向上に努めている。 職員が講師を務めるため、相互の勉強の場にもなっている。 外部の研修にも参加できるようにし、学んだことを報告してもらい、勉強に役立てている。 日々の業務の中で、介護方法を実践として指導するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内に、いくつか施設があるので、交流・研修は積極的に行なっている。 他施設との相互訪問も、今後、積極的に行いサービスの質の向上に役立てたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に可能な限り、自宅等に訪問し、顔合わせをしている。入居後、顔を合わせた時に安心してもらえるよう、支援に心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と密に連絡を取り合い、困っていること不安なことに耳を傾け状況を理解し、安心してサービスを利用できるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と密に連絡を取り合い、広い視野を持ち、適切なサービスが受けられるよう対応している。 誤解を招かないよう、よく話し合う機会をもつように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、時には娘や息子、孫のようにお互い打ち解け合い、和やかな関係作りができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族にしか分からない思いもあるため、それを壊さぬよう、また少しでも共有させてもらい、支えていけたらと思っている。苦しい時は話してもらい、力になっていきたい。そのためにも、信頼関係を築いていけるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や本人から話を聞き、今まで住んでいた所に出かけたり、知人の方より電話や面会に来てもらえるようお願いしている。	自宅に着替えを取りに行った際、再会した友人や、外出時に親しくなった知人が来訪することもある。また、姉の入所している施設への面会に付添っている。正月の外泊や週末は毎回日帰りで、自宅で過ごす利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家庭的な雰囲気の中、皆で和気あいあい話し、時に支えあう環境になっている。孤立しないよう職員が心がけ、皆で楽しく話せるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等により契約解除になった後も、必要に応じ家族と連絡を取り合い、困ることのないよう相談にのり支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話しを聞く機会を積極的に設けている。家族も本人本意を望んでいるため、家族と協力しながら、本人らしく過ごせるよう支援している。	日常的に好みの物や、やりたいことを聞き出し支援しているが、手芸や合唱・ゲーム等は無理強いはない。困難な場合は、日頃の言葉や行動から判断したり、家族の協力も得るなどし、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	若い頃の話などに耳を傾けたり、会話をする機会を設けている。困難な場合は、家族から可能な限り話しを聞き、把握に努めている。本人・家族ともに、話すことを拒否することもあるので、そういう時はあえて触れない配慮もしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人・家族から様子を伺い、また職員同士日々の気づいたことや情報を共有することにより、その人らしく、現状を維持し生活できるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回の処遇会議で話し合い、検討している。会議以外でも要望や気づいたことに対して、日々チームで話し合い、介護計画に反映できるよう心がけている。	3か月毎の見直しの他、毎月のケア会議で意見や気づきを話し合い見直しをする。また、急変の場合は随時見直しをする。ケアノート・申し送りノートにて、全職員が内容を共有し、本人や家族から確認のサインを得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアについて記録に残し、気づいた事柄は申し送りのノートに記入し、チームで情報を共有している。日々変わることなので、随時、臨機応変に対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に柔軟な対応を心がけているが、既存のサービス規則に縛られてしまい、対応し難い現状もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	把握している部分もあるが、まだ掘り出しきれていない地域資源もあると思うので、幅広い視野をもち、安全で豊かに暮らせるよう支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、家族や本人より、かかりつけ医をきいている。家族の協力を得ながら、受診をしている。また、必要により主治医あてに事業所より情報提供表を提出したり、一緒に受診に付き添うなどし、関係づくりに努めている。	従来のかかりつけ医と法人クリニックが半々で、利用開始時に確認している。家族が同伴で受診するが、都合で職員の時もある。結果は、個々の受診ノートに記録され、職員は確認サインを持って内容を共有する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職には、気づきを心がけてもらっており、気づいたことは、随時、管理者・看護職に報告相談し、家族と話し合い、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は、情報提供を行なっている。 入院中は連絡を取り合い、退院時にはいつでも対応できるよう相談させてもらっている。馴染みの病院とは関係づくりができていますが、その他の病院とは連絡を取り合っていないこともあるため、今後つながりを持てるようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	先のことを考え、本人・家族と話し合いの場をもち、看護職にも助言してもらいながら対応している。家族が誤解せず、理解納得して下さるよう時間をかけて取り組んでいる。	利用開始時に、本人や家族の意向を確認している。職員はじめ、かかりつけ医・法人クリニック等、関係者間の連携が図られており、重度化しても、看とりに近い状態にまでホームで対応できるよう、支援体制が確立されている。看とりに近い事例あり。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最低でも年一回は、救急法の内部研修を行い、実践力が身につくよう努めている。また、職員が講師になり、緊急時の対応・連絡法についても研修を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回、外出行事を利用し、避難訓練を行なっている。年に一回は消防署に行き、訓練を実施している。 運営推進会議等を通して、地域の方に協力を要請し、体制を整えている。	年1回地域の防災訓練に職員が参加している。ホームでは外出時を利用している。職員の動きも考えた玄関や居間からの地震を想定した誘導訓練を行っている。地元消防団（勤め人の為夜間のみ）や隣家から協力の確認を得ている。	住宅密集地であり万が一の時、周辺住民が一体となった協力体制が大事である。近隣の協力・安全な避難場所・職員が少ない夜間等を考慮した訓練は重要と考える。早期検討と取り組みを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大事にし、プライドや人格を傷つけないよう声かけに配慮している。会議等で運営理念に触れ、徹底を図っている。	プライドや人格を傷つけないよう、言葉づかいに気をつけ、トイレ誘導は、小声で耳元で行っている。その人の生活歴や職歴を大切に、無理強いせず、理念に触れながら、可能な限り本人に添った支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別で対応し、遠慮せず話せる場を設けている。問いかけるような声かけを行い、本人の意向を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人その人にあつた支援をするよう心がけているが、時間の都合で断念せざるを得ない時もあるので、工夫しながら対応していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今まで使っていた化粧道具を持ってきてもらうようにし、おしゃれをすることを忘れないように支援している。定期的に美容カットをしてもらっている。また、希望によっては、近隣の美容・理容室へ出かけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを反映できるよう要望があった場合は、職員に伝え対応している。生活暦を活かし、一緒に行なってもらうよう、声掛けし手伝ってもらっている。	準備から片付けまで、個々の得意場面で活躍してもらい、職員も食べながら食材など話題にし、楽しい雰囲気づくりに努めている。毎週火・金は自由メニューとなっている。煮物、味付け等職員は利用者から学ことが多いという。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の状態を記録し、職員間で申し送っていきながら情報を共有し、その時々に応じた支援を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人その人に合わせた口腔ケアを行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、対応している。ちょっとした合図にも気づけるよう努めている。	排泄シートに記録し、パターンを把握している。誘導支援により、おむつからリハビリパンツに変更できた人もいる。便秘の人は冷水や牛乳を飲むなど、薬に頼らない工夫をし、現状維持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンをチェックしたり、家族と連絡を取り合い、早めに対応できるよう心がけている。便秘の及ぼす影響を職員間でもう少し考え、周知徹底・工夫を図っていききたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく本人の希望に合わせて入浴できるように心掛けている。体調や希望にあわせ、無理強いほしない支援をしていくよう努めている。	午前・午後どちらでも入浴でき、パターンを記録している。拒否の場合は、隣接する小規模多機能型事業所にて入浴することもある。(場所を変えてみる) また、清拭や足浴の対応もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの様子に気を配り、自分からは訴えられない人もいるため、声をかけ配慮している。 夜間時にも、早めに眠るよう無理強いほしないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のケース記録に薬の説明書を綴じてあり、理解しておくようになっている。変動があった時は、申し送りノートによって伝え、気づいたこと等記録するとともに、情報を共有するようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いのある充実した日々を送れるよう心がけているが、一人ひとりの対応については、まだ職員の工夫が必要である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	どこまでが可能な支援なのか、把握しきれていない部分もあるため、市に相談するとともに、できる限り対応していきたい。家族に協力を得られない利用者については、家族と時間をかけて話し合い、本人の希望に沿えるよう対応し支援していきたい。	近くのお寺や城跡への散歩の他、毎月、隣接地や道路向かい側の法人グループの事業所と合同で、花見・七夕見学・イチゴ狩り・買い物ツアー等に、バスに乗って出掛け、外食も楽しむ。また、個別の要望に応え、馴染みの場所に付添うこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物ツアー等で、職員が付き添うことにより、自分で品物を選び料金を支払い、楽しめるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一緒に寄り添い、本人自身が電話できるよう支援している。手紙も「私は書けないから・・・」と最初からあきらめている方もいるので、一緒に行なうよう心がけ支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の手作りの物を飾り、手作りの居心地の良い空間を作っている。季節に合わせてレイアウトを変えるなどしている。	民家を改造した居間と台所は、一体で調度品等も家庭的である。限られた空間の中、テーブル・ソファ・移動用の椅子もあり、居場所を自由に確保でき語り合える。職員と並んで台所に立っている光景は家庭的で生活感のある場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間であるため、一人になれる場が少ないが、希望や状況により、対応できるよう配慮している。職員同士で話し合い工夫し、対応を考えていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みの物を持ってきてもらい、居心地の良い空間を作れるよう工夫している。	和紙に書かれた表札は、温かみを感じる。テレビ・椅子・家具・テーブル等、思い思いの馴染みの品が持ち込まれ、その人らしさのある居室となっている。ベット(持ち込みもある)・家具・：防災カーテンはホームで用意。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	限られた空間であることで、職員の目が届きやすく身体機能を把握しやすい。また、椅子などを頼りに歩こうとする意欲にもつながっている。		